

祝 設立20周年



これまで各種商工活動に活用されてきた商工会議所のネットワークを、グローバルで広げたいという思いから、新しい取り組みとして「YEG」がスタートしました。YEGは、各地商工会議所青年部の有志（Young Entrepreneurs Circle）の設立を主としたもので、各地商工会議所青年部の活動の活性化、情報交換、交流、共同事業の推進、YEGの発展を目的としています。

しょうせい 翔生

発行
全国商工会議所青年部連合会
〒100-0005東京都千代田区丸の内3-2-2
日本商工会議所中小企業振興部内
TEL 03-3283-7847
http://www.jeci.or.jp/

編集
広報委員会
担当副会長 中塚 純一郎
委員長 東口 由美子
委員 高瀬 功 高岡 悠明
川口 裕 田中 政明
守野 正彦 秋山 浩志
岩切 正可

感動、YEG魂に響け!



私が行く先々でお話させていただいた「一人一人の心の中に、各単会に、それぞれのプロックに大きな火を灯そうではないか」というのがまさしく本日のテーマです。個々の火が集まり、YEGという名の下に大きくそびえる火柱となり、燃え上がる時なのです。同じ大きな志を掲げた仲間が、集うこの機会を是非、チャンスと捉え、「袖触れ合った縁をも活かす!」の魂を忘れる事なく、多くの仲間達と触れ合い、膝を交え、腹から語り、酒を酌み交わし、連携、交流へ、そして生涯の友として長くお付き合いの出来る出会いを求め、この大阪大会を五感フル活用で、満喫して頂ければと思います。熱き友情のご参集に感謝申し上げます。ありがとうございます。

第二〇代商青連会長 大脇 唯眞



なにわへ!
九プロック大会
「苦悶を乗り越えた!」

全国の皆さん、大阪全国大会へようこそお越し下さいました。全国九つのプロック大会も大成を納め、さすがらしい面持ちでお集まり頂いたことと確信します。この大会は、唯一全国の仲間が一堂に会す事の出来る一大セレモニーです。

熱い事業で

賞金ゲット!

来たれYEG大賞

平成12年度に立案した「YEG大賞」が、皆さまの熱いラブコールにより復活します!

「わが青年部のこの事業こそ、今年一番燃えた事業だ!」この事業を全国に伝えたい!!
そんなユニークでおもしろい事業を募集します。ぜひ応募下さい!

応募締切 平成15年1月15日まで

応募方法 応募フォームを商青連ウェブサイトからダウンロードします。資料、写真等（指定フォーマット）を送メールで送付下さい。

応募用紙 <http://www.cin.or.jp/yeg/>

応募内容 商工会議所青年部が行った平成14年度事業（但し商青連の事業は除きます）

「今年度一番と思われる事業を」応募下さい!

審査委員 全国商工会議所青年部連合会役員、日本商工会議所役員等

表彰内容 大賞 1 YEG 表彰状 賞金10万円
大賞会長特別賞 1 YEG 表彰状 賞金5 YEG 表彰状 様

平成15年2月8日に選考会を行い、結果を商青連ホームページ上（<http://www.cin.or.jp/yeg/>）公表し、2月9日千葉県柏市で行われる全国会長研修会で発表・表彰します。

（全ての応募事業はホームページ上でご案内し、紹介いたします。）

問い合わせ、提出先
日本商工会議所 全国商工会議所青年部連合会

TEL 03-3283-7846
E-mail yeg@jeci.or.jp

担当 西郷・関口

更新

全国商工会議所青年部連合会

<http://www.cin.or.jp/yeg/index.html>

更新 全国商工会議所青年部連合会
<http://www.cin.or.jp/yeg/index.html>

お待たせの商青連のホームページがリニューアルしました。各プロック大会のシフトも、盛りだくさん。あなたも覗いてみるかも? ますクリックしてください。



掲載お問合せ...
日本商工会議所 広報部
koho@jeci.or.jp
TEL 03-3283-7901

「石垣」記事募集
YEGムーヴメント
全国誌でPR!
全国五二七の会議所情報が満載の月刊誌「石垣」では、各地で開催する青年部イベントを大募集しています。あなたのYEGイベントを「青年部インフォメーション」誌上で全国発信してみませんか?

平成14年度「翔生塾」を終えて

研修委員会 委員長 杉本 定幸

梅雨真っ盛りの7月4日から5日にかけて、第1部として北叡山は西塔(さいとう)にある「居士林」と言う、唯一広く一般の人々に開放された修行道場で「日常の生活を離れ、自分自身に向き合う時間を持つて頂き」、山の豊かな自然と清らかな空気のなかで体験する仏道修行の場に踏み込んでいただきました。

志のある全国各地のYEGメンバーがより多く参加して頂き無事終了できました。これも単に皆様のお力添えがあった事を深く感謝申し上げます。

さて、本年は「立ち止まるな!そして胸を張れ!YEG's be ambitious!」の14年度商青連スローガンのもと、「立ち止まらず、胸を張って」の如く、道を開拓する為に必要な知恵と勇気と行動力を養う場を求める事が必要ではないかと思いついて今回の研修を企画し、その中で最終的に強靱な精神力を養い30,000人の為の1人となる“将の将たる人間”として、志を高め人間の持力の向上を目的として開催いたしました。

第1日目は、研修と修行の違いを悟られ、普段何気なく行っている行動が如何にダメであるかと思い知らされ、全ての行いは行(ぎょう)であるため、無駄なお喋りは勿論出来ず、また休憩も無く刻み分けの生活を味わい、その中で一環していたのは、全ての行を起す時は、手を合わせる事から始まり手を合わせて終わる。移動するときも合掌からはじまり、合掌したままの歩行、また何かを行う前には般若心経のお経を唱えました。

食事の時も一斉の音を立ててはいけなく、またお茶は飲むものでなく最後に器に少しずつ配り、タクアンで器を綺麗にしてそのお茶を飲み干して食事を終了する。無論その間は正座で全員が食事を終えるまで足を崩す事はもちろん、話も出来ません。般若心経を唱えた後、「いただきます」「ごちそうさまでした」と言った日ごろ何となく言っている言葉も、食材だけでなく料理を作っていた方への感謝を、心から示す言葉であることをご教授いただきました。それと如何に普段の食事が楽である事も痛感しました。



赤松 光典所長の講話

翌日は5時に起床、また隊列を組んでの移動坐禅止観、浄土院参拝、森林浴を兼ねたウォーキングの後ジョギングが始まり、清掃、朝食、写経と続き所長である赤松氏よりお話しを頂き、人とはどうあるべきかを語って頂きました(当初打ち合わせではかなり辛口の事を仰っておられたので内心ヒヤヒヤしておりましたが)。

その後昼食をいただき、退所式を済ませ居士林を出発し、第2部研修先である鳥丸京都ホテルに移動し、大協会長よりご挨拶を頂き、講演会としてPHP総合研究所副社長江口克彦氏に「松下幸之助に学ぶ商売人の心」をご講演いただきました。みなさんには、居士林での汗をそのまま講演を聞いて頂きました。

講演の内容は、21世紀の時流(～2025)を見つめてと言うことで、現在高度情報化で高度技術化が進み、グローバル化(国際化)の時代になり価値観が問われる時代である。少子高齢化により労働力も多様化してくる超高速・超複雑な社会に入っている。この世の中で経営者の選択として、努力をする必要があるということでした。

経営者の選択(努力をする)とは…

変化を読み取る経営者、知恵を出す経営者(+α)、Speedのある経営者、「なあ」は資格無し、即断即決即行、危機感を持つ経営者、「経営の明日が分かる」信念を持つ経営者、経営の戻り場所を作る、経営理念、信頼される経営者

経営理念とは?何か。何のために会社はあるのか=世のため人のためなのか、どのようにするのが正しいのかを考える、すなわち哲人経営者となる(思索する経営者、考える経営者)最後に経済は今年から4～5年はこのような状態が続く、その後インフレになるのではとの事で質疑応答に入り終了しました。

第2部終了後引き続き終了式を行い、大協会長より参加された皆さん一人一人に修了証書を手渡し、懇親会へと移動し、締めとして小田原での全国大会の時の歌「夢はあざやかに」を大合唱して【平成14年度翔生塾】を閉塾といたしました。

参加していただいた50名のみなさん本当にありがとうございました。1泊2日の居士林での行の成果が、今すぐ出る人もいれば何年も掛かって出る人もいらっしゃるからお話しされてましたが、今回自分が経験したことが自分の何かを変えるキッカケとなれば、企画いたしました研修委員会一同嬉しい限りです。

最後に一生に一度の体験として、みなさんの単会・企業の研修に一度はご利用してみてください。一度体験すると世界が変わるかもしれませんよ。 合掌



写経に取り組む参加者



一汁三菜の食事をいただく



起業家講を学ぶ



赤松所長と大協会長

火種となれ 青年部

健康な日本創造のために

おどま薩州一藩の不二歳
... やかちや一天下を
股ばいにひっぱら

負けじ魂



◆「大したものだよ、負けじ魂 何くそ精神が日本人には大事ですよ」

■「元気を旗印に、走ってゆく気構えて 歌わせて頂いております」

数はさらに増加し、我々も仲間をふやさねばなりません。今年に設立20周年で、さらに地域における原動力・活力として経済力を推進する翼を担う団体を目指し、活動しております。

◆山口 いや、力強いです。組織の活性化は、若い人の行動力ですね。そこに火をつけて動き出すと、全体の組織も動き

ますからね。火種を探すこと。火種は青年部ですよ。日本の戦後を盛り上げてきた人たちの気持ちに火種ですから、それは皆さんにも受け継がれている。先人から火種を受け取って、大きな火にしていかなければ。今やらなかつたら、日本はだめになりますからね。それが青年部に対する我々の大きな期待なんです。

■大脇 ありがとうございます。やはり高度成長の引き金は、日本人の勤勉さと技術の高さとか、そういうものがあつたと思つて、もう二回原点を見直す動きというのが本当に必要な気がいたします。



YEGスピリッツから、社会・経済・教育、日本人の失くしたもので大いに語り合った (7月25日 日本商工会議所にて)

◆山口 そうなんです。若者が原点を見直さなければいけません。

■大脇 今、それぞれ地域で青年部が独自の活動もしながら、高青連にも加盟しているんです。少数精鋭、大きいところもありますが、ほんとは熱い思いで、会長を先頭に頑張っているのが、よく伝わります。

◆山口 教育というものは根気強くやらなければならぬものです。継続してください。若い人が今、行動しなければ日本を見失う。

■大脇 はい。

◆山口 私は会頭就任にあたって将来の日本のために、「健康な日本の創造」というのを掲げました。書いたことを二年経つて読み、これはほんとに間違つてないと感じました。

■大脇 私ども高青連も昨年、日本商工会議所の定款に位置づけていただきました。このことを受けて、青年部へ会頭の期待などお聞かせください。

◆山口 青年部会員の個々の事業そのものが、まず健全でなくては行けません。自らを健全にして、他に及ぼしていくことが大事なんですよ。自分の時間も犠牲になりますが、貢献は大きい。大変でしょう。一年は。

■大脇 はい。自社の基盤整備もしっかりしつつ、出てこない、なかなか。私を含め高青連に出ている人は、役を二つ受けることを前向きに考えていると思います。

◆山口 経験しておくかと将来のためにはものすごく大きな財産になりますね。

■大脇 はい。ところでワールドカップがありました。スポーツでも日本は、ハングリイさがいま二つ欠けているのかなという感じがします。ちなみに私は学生時代ラグビーをやっていました。何が一番成果だったかというと、勝ちより負け、挫折を味わったことです。

◆山口 豊かなことは悪くはないけれど、闘争心は失つちやいかんですね。そして現代は競争社会ですから、一生自分の責任で生きなければならぬ。競争を一生し続けるとき、精神的に弱い人は負けます。負けじ魂ですよ。地域ごと強くなる。そういう意味で青年部は非常に大事だと思えますよ。

■大脇 本日は私ども青年部の思いをお聞きいただき、本当にありがとうございます。



山口 信夫 日商會頭 大脇 唯真 商青連會長

■やまぐち・のぶお
日本商工会議所 会頭
旭化成株式会社 代表取締役会長
大正13年生まれ・広島県出身
平成13年7月第17代会頭に就任。就任にあたり「健康な日本の創造」を方針に掲げ、現在も国内外の諸問題、特に中小企業の活性化に向け奮闘中。

■おおわき・ただし
全国商工会議所青年部連合会 会長
有限会社 エスポワール 代表取締役(婦人服小売)
昭和33年生まれ・鹿児島市出身
県立甲南高校・中央大学と在学中はラグーマン。締めこみ姿で太鼓を叩き「おどま薩州」を舞いあげる姿は有名。全国青年部3万人メンバーに、今日も熱い風を送る。

「それでは、いかせていただきます」

本年度恒例 大脇「おどま薩州」が始まった山口 日本商工会議所会頭 大脇 商青連会長対談。ウィットに富み温かく誠実な山口会頭の人となり、大脇会長はじめ一同は感服。「青年部は日本を創る火種であれ」山口会頭の言葉に、勇気と力が湧きました。臨時号では対談を少しだけご紹介。対談の全容は二〇周年記念誌に一挙に掲載します。

※おどま薩州 終・拍手

■大脇会長 失礼しました。元気だけが取り柄です。

◆山口会頭 元気が一番ですよ。

■大脇 全国三万会員がいるんで頑張っております。自分の懐にガツと呼び寄せる意気込みです。事あるごとに歌わせていただいています。自分らしさ、ふるさと、自社に誇りを持ってというメッセージです。私が掲げるスローガンは「立ちどまらな。そして胸を張れ。」(Don't be ambitious)です。この複雑な状況こそ胸を張って走り続ける。クラーク博士の「大志を持って大いなる夢に挑め」という気持ちも込めています。



鈴木 副会長



古泉 直前会長

今四四五単会に青年部が設置され、三九七単会が高青連に加入しているという状態です。今後も各地で青年部を設置します。市町村合併による統合で減る部分もありますが、設置

◆山口 自分たちが思う以上に大きな効果があるんですよ。それを認めてくれる人に刺激を、感動を与えますから、それから火がおきて種火になってくる。そして今、若い人たちのバイタリティに期待しているわけです。若い人の力ですがそこは直せないので、頑張っていたらいい。



中塚 副会長



宗野 専務



永桶 副会長

